

ミツバチは農業の大事なパートナー

わたしたちが毎日食べている野菜や果物を育てるためにミツバチがとても大きな役割を果たしていることを知っていますか？

ミツバチは花の蜜を集めるだけでなく、野菜や果物を栽培する畑で果実を实らせるための授粉も行っています。

もしもミツバチがいなくなったら・・・多くの野菜や果物がわたしたちの食卓から消えてしまう可能性も。

実際に、この農業に不可欠な存在のミツバチたちが2005年～2006年頃から世界中で大量にいないという現象が起こり始めています。※2

“世界の食糧の9割をまかなう
100種類の作物のうち
その70種以上は
ハチが受粉を媒介している”

※1
国連環境計画 (UNEP) アヒム・シュタイナー事務局長



※3
わたしたちが食べている食糧の1/3が、ハチなどの生物の授粉によってつくられているとされている

“2007年春までに
北半球の4分の1の
ミツバチが消えてしまった”

※4



世界中で起こっている ミツバチの異変

日本国内の各地でも、ミツバチの大量死や、ミツバチの巣の異変が見られています。

さまざまな原因が複合的に影響を与えていると言われていますが、その中でも最も直接的な原因とされているのが、ネオニコチノイド系農薬です。※3

<< ミツバチが大量に消えてしまった国
フランス・ベルギー・イタリア・ドイツ・スイス・スペイン・ギリシャ・オランダ・スロベニア・イギリス・中国・アメリカ・カナダ・ブラジル・インド・台湾・ウルグアイ・オーストラリア、日本

GREENPEACE

みつばちをまもること =
畑とごはんをまもること



www.beejp.org

国際環境 NGO グリーンピース・ジャパン

GREENPEACE

www.greenpeace.org/japan

東京都新宿区西新宿8-13-11 NFビル2F Tel. 03-5338-9800 Fax. 03-5338-9817

@gpjTweet

facebook.com/GreenpeaceJapan

子どもの健康からミツバチまで・・・生物多様性を脅かし、わたしたちの知らないうちに身近で大量に使用されているネオニコチノイド系農薬。グリーンピースは農薬に依存しない有機農業こそが、環境も、人間を含む生き物も脅かさない、これからの時代にふさわしい農業だと考えます。お買い物で、消費者であるわたしたちが環境に配慮した食べ物や生活用品を進んで選ぶことは、それらを生産している人々の力強いサポートになります。農薬を使わないように努めている生産者と消費者がつながって、農薬がなくても作る側も買う側も困らないことをいっしょに証明しながら、農薬のない生活が主流となっていくように。わたしたちの、まいにちの選択が決め手となります。

グリーンピースは政府や企業から資金援助を受けず、個人の方々のご寄付によって活動しています。市民の皆さまのご支援によって、中立的な調査活動などを継続して行うことができます。ご寄付はウェブからも受け付けております。 www.greenpeace.org/japan/donate



生産者さんの声



熊本県大津町 のむら自然農園
野村さんご夫妻

農「薬」と呼ばれるものの中に「くすり」はひとつもありません。すべて生き物を殺すための化学物質です。殺菌、殺虫、殺草をして畑に作物の種をまけば、作物だけがすべての栄養を吸ってぐんぐん育つはず・・・それが近代農業の発想です。人間の腹さえ膨らめばそれで良いと言っているようで、私はちょっと寒気がします。ネオニコチノイド系農薬はさらに、近くにいる益虫のミツバチまでも大量に殺す疑いがありますが、近代農業の発想からすれば何の問題もないでしょう。人間への健康被害も言われていますが、それも無視され続けています。私が携わる有機農業は、害も益もなく全ての生き物のいのちを大切にしようというものです。私たち人間の取り分は、不思議なことに物心両面で限りなく豊富に与えられます。それも、年を経るごとにより豊富になっていきます。それが有機農業の魅力であり、私の生き甲斐でもあります。

ハチがいると・・・



with bees

ハチがいないと・・・



without bees

ミツバチの授粉によって
実がなる野菜や果物

りんご、アーモンド、カカオ、カリフラワー、アスパラガス、ブロッコリー、芽キャベツ、キャベツ、にんじん、セロリ、ナス、にんにく、マカダミア、ライチ、マンゴー、たまねぎ、スイカ、いちご、トマト、梨、桃、梅、ポンカン、かぼちゃ、梅、さくらんぼ、ナツメグ、ブラックベリー、ラズベリーなど

※1) 国連環境計画 (UNEP) アヒム・シュタイナー事務局長による報告 (2011年) / UNEP 報告書 www.unep.org/Documents.Multilingual/Default.asp?DocumentID=664&ArticleID=6923&l=en ※2) 蜂群崩壊症候群 (CCD) ※3) 2014年4月発表 グリーンピースのレポート「消えるハチ」日本語版 www.greenpeace.org/japan/Global/japan/pdf/201404_BeesInDecline.pdf ※4) Jacobson, Rowan "Fruitless Fall: The Collapse of the Honey Bee and the Coming Agricultural Crisis" 2009

Photo: Axel Kirchhof / Greenpeace

ネオニコチノイド系農薬って？

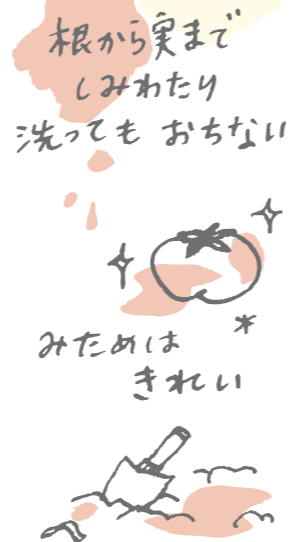
ネオニコチノイド系農薬は、日本でも、園芸用の殺虫剤、ペットのノミとり首輪や害虫駆除剤、建材から稲作、山林への空中散布まで、様々な用途に使用されており、この15年間で出荷量は約3倍に増えています。

環境と生態系への影響

ネオニコチノイド系農薬は水溶性で、植物の内部に浸透していくことから浸透性農薬とも呼ばれています。溶けて土壌や水に残るため、環境に蓄積して広がりやすく、さらにその作用（毒性）は長期間にわたって続きます。虫の神経に作用する毒性を持つため、ミツバチ減少の主原因のひとつと考えられています。

人のからだへの影響

「学習や記憶機能にかかわる神経と、脳の構造の発達に有害な影響を与えるかもしれない」という見解もあり、子どもの脳や人体への影響も心配されています。※5 厚生労働省が検討しているネオニコチノイド系農薬（クロチアニジン）の残留基準値の見直し案では、EUの許容量（急性）に照らすと、ほうれん草においては、たった40グラム食べるだけで子どもが急性毒性を起こしかねない値が提案されたため、市民の反対で再審議となっています。（2014年3月現在）



農薬会社の責任は？

ネオニコチノイド系農薬を生産している企業は世界でも大手の農薬関連会社で、バイエル、住友化学、シンジェンタなど。

国内で売られているネオニコチノイド系農薬商品の中には、説明書きに「ハチに影響がある」と記載された商品もありますが、農薬会社は「使用方法をまもれば、ネオニコチノイドによる環境や生態系への悪影響はない」と関連性を否定し続けています。しかし、影響が決定的になってから規制するのでは遅いです。

世界有数の農薬大国、日本

日本の一般的な農法では、虫のいる季節は1週間に一度は農薬を散布しているそうです。しかし「農薬を使う理由」は十分に説明されているでしょうか？

農林水産省との農薬残留基準についての話し合いの中で、農薬の必要性を尋ねたところ、「農薬散布をしないと（虫食いなどで見た目が悪くなり）商品価値が下がるから」という旨の答えでした。しかし、それでどのくらい商品価値が下がっているのかを確認するデータはなく、農薬の必要性をそもそも検証していないことがわかりました。

最近では、農薬の必要性について、生産者側からも疑問が投げかけられる事例もあります。

なぜ農薬が使われてきたの？ 本当に必要なの？ 無農薬の野菜が少ないのはどうして？・・・それらの「？」をよく見つめることが、人にも自然にもやさしい食へのはじめの一歩です。少しだけ虫に食われていても、形がふぞろいでも、無農薬の農産物を積極的に選ぶようにするなど、わたしたちの選択によって「消費のかたち」を変えていくことが、環境を守ることにつながります。



海外では厳しい規制



ヨーロッパでは・・・

ネオニコチノイド系農薬3種の使用が暫定的に一部禁止に。※6 欧州委員会は今後2年以内に、これらの農薬に関する新たな科学情報を見直し、禁止を取りやめるか/暫定的に継続するか、恒久的に禁止とするかを決定する。



北米では・・・

農薬のラベルに「ハチへの危険性」についての表示を義務化。



韓国では・・・

ネオニコチノイド系農薬の新規登録と登録変更を暫定的に規制。ミツバチ被害に対する警告強化を開始。

いま、国内で起きていること

ヨーロッパでは、ネオニコチノイド系農薬の規制の強化やその毒性の再評価が進んでいるにもかかわらず、日本では規制がないばかりか、ネオニコチノイド系農薬クロチアニジンの食品への残留基準が大幅に緩められようとしています。

ミツバチへの悪影響だけでなく、人への影響についても報告がなされ、今後さらに研究が進められようとしている中で、日本では、疑われているリスクをきちんと検討せず、農薬メーカーの申請によって基準緩和がすすめられようとしている現状。このままでは、子どもたちを含むわたしたち消費者は、増えていく残留農薬のリスクを押しつけられる一方です。



ミツバチとわたしたちの暮らしをまもるための4つのアクション

bee my friend

www.beejp.org みてね



わたしたちの知らないところで進行している、農薬による生態系の破壊。日々の食と農と環境が、子どもたちが大人になっても豊かなものであるために今できること。

おうちで

◆ ネオニコチノイド系の農薬製品や殺虫剤、ペット用品などを使わないようにする。
◆ 身近にあるネオニコ商品名一覧はこちら：
www.greenpeace.org/japan/campaign/food/products

ネットで

◆ まだまだ知られていないネオニコチノイドの問題を、食に関心のある友だちに SNS で知らせて広める。
◆ グリーンピースの Facebook グループ【bee my friend】に参加して最新情報をチェック！お気に入りの有機農家さんを見つけたら、グループでシェアを。
www.facebook.com/groups/beemyfriend
◆ 農薬に頼らず環境に配慮した農業を応援する宣言をする。
www.greenpeace.org/japan/bee-my-friend/

お買い物で

◆ 有機農業でつくられた野菜や果物を選ぶ。
◆ 自分の暮らす地域の有機農家を調べ、直接購入して生産者を応援する。
◆ 利用しているスーパーに、有機や無農薬の野菜や果物をもっと置いてもらうようお願いする。

学校で

◆ 特にネオニコチノイド系農薬の影響を受けやすいとされる子どもたち。毎日食べる給食に、安全な有機野菜を取り入れてもらうよう、自治体の議会や学校に働きかける。